

- 問1 平安時代、藤原氏が権力を握るために利用した官職のうち、天皇が成人した後に、その事務を総覧し政治を補佐する最高位の役職を何と呼びますか。 (2025年 高知県公立入試 類似)
1. 関白 2. 太政大臣 3. 摂政 4. 内大臣
-
- 問2 日本の古代政治の変遷を記した年表において、律令に基づく政治のしくみが整えられた時期の次に来る、藤原道長が活躍した「時代の特色」として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
1. 武士が政治の表舞台に現れ、土地の支配をめぐる争いを解決するために幕府を開いた。 2. 実力のある戦国大名が各地を支配し、統一政権を目指して激しい抗争を繰り返した。 3. 位を退いた天皇が上皇となり、摂政や関白を排除して政治の実権を握った。 4. 天皇との親戚関係を背景に、有力な貴族が摂政や関白の職に就いて政治を主導した。
-
- 問3 平清盛が率いる平氏は、急速な勢力拡大に対して反発した源氏との間で、全国規模の争乱を繰り返しました。平氏が最終的に滅亡した、現在の山口県に位置する戦いの場所として適切なものを答えなさい。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 富士川 2. 屋島 3. 壇ノ浦 4. 一の谷
-
- 問4 東北地方に独自の文化を築いた奥州藤原氏が、鎌倉時代初期に滅亡へと追い込まれた背景について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 鎌倉幕府を樹立しようとする平清盛の勢力拡大に巻き込まれたため 2. 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため 3. 足利尊氏による新しい政治体制の樹立を拒み、武家勢力の反感を買ったため 4. 自由な商工業を重視する政策が、当時の朝廷が定めた律令制度に違反したため
-
- 問5 12世紀の日本と諸外国との貿易に関する記録には、ある人物が航路や港を整備して貿易を拡大させたことが記されています。この人物が、武士として初めて就任した最高官職の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
1. 成人後の天皇を補佐する関白 2. 天皇に代わって政治を行う摂政 3. 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣 4. 幕府を開くために朝廷から任命される征夷大將軍
-
- 問6 平安時代、遣唐使の廃止などを背景に日本独自の「国風文化」が発達しましたが、この時期に貴族が住んでいた、中心となる建物と廊下、池のある庭園などが特徴的な建築様式を何といいますか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 書院造 2. 合掌造 3. 寝殿造 4. 武家造
-
- 問7 794年に、政治を立て直し、仏教勢力の政治介入を避けるなどの目的で、現在の京都に桓武天皇によって移された都を何といいますか。 (2022年 岐阜県公立入試 類似)
1. 平城京 2. 平安京 3. 長岡京 4. 恭仁京
-
- 問8 国風文化の時期には、かな文字の発達により優れた文学作品が多く書かれました。紀貫之らが天皇の命を受けて編纂した、日本で最初の勅撰和歌集（天皇の命令でまとめられた和歌集）は何ですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 古今和歌集 2. 新古今和歌集 3. 万葉集 4. 懐風藻
-
- 問9 日本の有形文化財の分類において、奈良県の東大寺の大仏と並び、東北地方の代表的な歴史的建造物として岩手県に現存する中尊寺金色堂があります。この建物を建立し、本拠地である平泉を拠点として12世紀に三代にわたって繁栄した一族を選んでください。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 北条氏 2. 奥州藤原氏 3. 太宰府の官人 4. 平氏
-
- 問10 保元の乱から平治の乱へと続く一連の動乱が、日本の支配構造に与えた影響を説明した文として、適切なものはどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 全国に守護と地頭が設置されることで、地方武士が守護大名として独立し、幕府を介さない政治が行われた。 2. 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。 3. 公家と武士の融和が進んだ結果、武家諸法度が制定されて武士の行動が厳格に制限されるようになった。 4. 天皇の権限が絶対的なものとなり、院政が廃止されて武士は再び地方の警護を専門とする役職に戻った。
-
- 問11 福島県会津地方の歴史に関する記述の中で、地元の僧・徳一（とくいつ）が教義をめぐる激しい論争を行ったとされる、天台宗の開祖は誰ですか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 最澄 2. 日蓮 3. 空海 4. 道元
-
- 問12 平安時代中期、藤原道長や頼通の親子が政治の実権を握っていた時期の体制について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 天皇との親戚関係を一切持たず、実力主義で選ばれた官僚たちが合議によって政治を行う律令政治。 2. 自身の娘を天皇の后とし、その子供を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の親戚として政治を行う摂関政治。 3. 天皇が位を譲って上皇となり、天皇の父方の親戚として実権を握りながら政治を行う院政。 4. 地方の有力な武士と養子縁組を繰り返し、武力による裏付けをもって朝廷の役職を独占する武家政治。
-
- 問13 平清盛が行った、自身の政治的・経済的な力を強めるための政策として、最も適切な説明はどれですか。 (2015年 長野県公立入試 類似)
1. 独自の法典である御成敗式目を制定し、武士同士の領地争いを裁く基準を明確にした。 2. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。 3. 全国に守護と地頭を設置することで、地方の武士や土地に対する支配力を強化した。 4. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの最新技術を取り入れた。
-
- 問14 白河上皇が院政を開始した背景とその政治的目的について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。 2. 土地の国有化を進める班田収授法が機能しなくなったため、新しい戸籍制度を確立して律令国家を再建しようとした。 3. 仏教勢力の強まりに対抗するため、上皇は出家して法皇となり、寺院の武装化（僧兵）を完全に禁止しようとした。 4. 平氏や源氏といった武士の力が強大になったため、それらを鎮圧するために天皇が退位して軍事権を握ろうとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 関白	天皇がまだ幼少の間、その代わりを務める職を「摂政」と呼ぶのに対し、天皇が成人した後には置かれるのが「関白」です。藤原氏は娘を天皇の後（きさき）とし、生まれた子供が幼い間は摂政、成長してからは関白となって実権を握り続けました。これを摂関政治といいます。
問2	答え 4 天皇との親戚関係を背景に、有力な貴族が摂政や関白の職に就いて政治を主導した。	律令制度による中央集権的な政治が変化していく中で、平安時代中期には藤原氏が天皇の補佐役である摂政や関白を独占する摂関政治が確立されました。藤原道長はこの体制を最も強固にした人物であり、貴族が政治の中心を担ったこの時代の大きな特徴となっています。
問3	答え 3 壇ノ浦	源頼朝が挙兵した後、平氏は源義経らによって西へと追い詰められました。1185年、山口県の下関にある壇ノ浦で行われた海戦に敗れ、平氏政権は完全に滅びました。
問4	答え 2 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため	源頼朝は、対立した弟の源義経が平泉へ逃げ込んだことをきっかけに、奥州藤原氏への攻撃を開始しました。しかし、その背景には義経の保護という口実だけでなく、当時東北地方で独立した強大な勢力を持っていた奥州藤原氏を排除し、全国的な支配を確立したいという頼朝の政治的な目的がありました。
問5	答え 3 朝廷の最高機関である太政官のトップである太政大臣	平清盛は、現在の大輪田泊（神戸市）を修築するなどして日宋貿易を積極的に推進し、莫大な経済力を蓄えました。その背景には、武士として初めて太政大臣という高い地位に就き、朝廷において大きな発言権を得たことがあります。源頼朝が就任した征夷大將軍とは異なる、伝統的な官位制度の中での最高職を目指したのが特徴です。
問6	答え 3 寝殿造	平安時代の中期、日本独自の風土や感覚に合わせた国風文化が栄えました。この時期、貴族の邸宅として用いられた建築様式は「寝殿造」と呼ばれます。池を中心とした庭園を囲むように、中心となる建物（寝殿）と、そこから伸びる廊下（渡殿）でつながれた開放的な構造が大きな特徴です。
問7	答え 2 平安京	奈良時代末期、仏教勢力が政治に強く影響を及ぼすようになったため、桓武天皇はそれまでの平城京（奈良）から離れ、政治を一新しようとした。784年の長岡京への遷都を経て、794年に山城国の平安京へと都を移しました。これにより、以後約1100年にわたる平安時代の幕が上がりました。
問8	答え 1 古今和歌集	紀貫之らは、漢字を簡略化して作られた「かな文字」を用いることで、日本人の繊細な感情を和歌として表現しました。こうしてまとめられた『古今和歌集』は、その後の日本文学における和歌の地位を決定づける重要な作品となりました。
問9	答え 2 奥州藤原氏	現在の岩手県平泉町を本拠地とした奥州藤原氏は、清衡、基衡、秀衡の三代にわたり、東北地方で独自の文化を築き上げました。中尊寺金色堂は、その繁栄を象徴する豪華な阿弥陀堂であり、奥州で産出された豊富な金がふんだんに使われています。選択肢にある太宰府は九州の政治拠点であり、平泉とは地理的に全く異なる場所です。
問10	答え 2 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。	保元の乱において源氏や平氏の武士が活躍したことで、それまで貴族の「奉公人」的な立場であった武士の地位が劇的に向上しました。この乱の結果、武士は単なる兵力ではなく政治を動かす主体となり、平清盛が太政大臣に就任するなど、武家が政治の表舞台に立つ「武家政権」の時代を切り拓くことになりました。
問11	答え 1 最澄	会津の僧である徳一は、最澄との間で「三一権実論争（さんいちごんじつろんそう）」と呼ばれる、すべての人々が悟りを開けるかどうかについての論争を数年間にわたり繰り広げました。このエピソードは、最澄の教えが中央だけでなく地方へも影響を与えていたことを示す事例でもあります。
問12	答え 2 自身の娘を天皇の後とし、その子供を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の親戚として政治を行う摂関政治。	藤原氏は平安時代、天皇との婚姻関係を深めることで権力を維持しました。自分の娘が産んだ子（孫）を天皇に立て、自分は天皇の母方の祖父という立場を利用して、幼い時には摂政、成人してからは関白として政治を主導しました。この仕組みを「外戚（がいせき）関係」と呼びます。
問13	答え 2 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を天皇に即位させることで、天皇の親戚として権力を強めた。	平清盛は、かつての藤原氏が行った摂関政治と同じ手法を用いました。娘の徳子を高倉天皇のきさきにし、その子の安徳天皇を即位させることで、天皇の祖父（外戚）として強い発言力を持ちました。また、並行して大輪田泊（現在の神戸市付近）を整備し、日宋貿易を推進して経済力も蓄えました。
問14	答え 1 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。	院政が始まる直接の背景には、藤原氏を外戚（母方の親戚）に持たない後三条天皇が即位し、摂関家を軽視する政治を行ったことがあります。その子である白河天皇は、この流れを引き継いで退位後に院政を始め、藤原氏から政治の主導権を奪い返しました。